

熱き「絆」鉄溶かし

たたら製鉄体験 卒業記念し铸件に 大原小6年生



たたら製鉄で作った鉄を用いて完成した卒業記念品を手にする大原小6年生

毎年たたら製鉄の体験 関市大東町の大原小学校
学習に取り組んでいる一 (佛川恒明校長) の6年

生は、自分たちで採取、
精錬した鉄を使い、校章
をあしらった記念品を制
作した。たたら製鉄は長
年行ってきたが、铸件作
品に仕上げたのは初めて
で、卒業を控えた児童31
人が「絆」の証しを手
入れた。

たたら製鉄体験は、旧
内野小学校時代から地元
のボランティア団体・ホ
ッパの会と共に継続し、
2017年度で19年目。
これまでは「けら」と呼
ばれる鉄の塊を作るまで
だったが、児童の保護者
を通じて奥州市水沢区の
及源鑄造が協力。児童が
精錬した鉄のほか铸件に
するための銑鉄を混ぜ、
児童のデザインを基に铸
物に仕上げた。

2月20日には、奥州市
铸件技術交流センターで
溶かした鉄を型に流し込
む作業が行われ、児童が
見学。小山祐樹君は「鉄
を溶かして形にしていく



及源鑄造による铸件製作を見学する児童＝2月
20日、奥州市铸件技術交流センター

過程が見られて感動し
た」と振り返った。
デザインを考えた小野
寺望友さんが「卒業した
ら別々の中学に行く人も
いるので、ずっと一緒だ
よ、という思いを込め
た」という作品は、縦6
センチ、横5センチ、厚さ0.8
センチで、同校の校章と「大
原」「絆」の文字、卒業式

の日付が入られた。
ホッパの会の勝部欣一
事務局長は「今まではた
たら製鉄を体験するだけ
で終わっていたので、プ
ロの協力で製品にできた
のはありがたい。この取
り組みを、これからも継
続していきたい」と話し
ていた。